

生ごみ処理容器「キエーロ」 利用マニュアル（保存版）

「キエーロ」で楽しく生ごみの減量にチャレンジ！！



土の上に直接置く底がないタイプです

「キエーロ」は、土と太陽と風のをかりて生ごみを分解・消滅させるための生ごみ処理容器です。土の中に生ごみを埋めるだけで土壌中のバクテリアが生ごみを分解します。夏場は1週間、冬場は2、3週間で生ごみは消滅します。

生ごみの減量にはこんな目的があります！！

- ①ごみの焼却費用が減り、市の財政負担が軽減
- ②ごみの資源利用による、循環型社会の形成
- ③ CO2 の排出抑制による、地球温暖化の防止



準備

①設置場所

- 一日3時間は日の当たる風通しの良い場所に設置しましょう。
- 「キエーロ」は土の上に設置しましょう。
 - ・生ごみを分解するバクテリアは暖かさと酸素を好みます。(好気性バクテリア)
 - ・土の表面が乾き、虫や臭いが発生するのを防ぐことも出来ます。

②用意するもの

○防腐剤

防腐剤をキエーロ表面に塗布することを推奨します。
塗布することにより木の腐敗などを防ぎ、長持ちします。

○土（容器7分目相当、約80～100リットル）

庭土、畑土（または市販の黒土）を使いましょう。
粘土質や砂の多いものは避けましょう。

○スコップ・移植ごて

柄が長く両手で使える中型のものが使いやすいでしょう。
小型の移植ごてもあると便利です。

○生ごみをため置きする容器（推奨）

3, 4日生ごみをためる必要があります。三角コーナーでは、
虫や臭いが発生し不衛生なので、ステンレス製のふた付きの容器の
ものなら臭いがつきにくく最適です。



黒土やスコップはホームセンター等でお買い求めいただけます。



ふた付きのステンレス容器
がおすすめ

好きなもの・苦手なもの

火を通したものと細かく刻んだもの、すでに発酵しているものなどがキエーロの好むものです。苦手なものでも、細かくする、ゆでるなどの工夫をすることで、分解を早めることも出来ます。

○好きなもの(早く分解できる)

- ・調理されたもの（揚げ物、炒めもの、煮物、みそ汁等）
- ・ごはん、パン、麺類
- ・火や湯を通した肉・野菜、刻んで細かくなった肉・野菜
- ・廃食用油、ドレッシング、飲み物、米のとぎ汁

△苦手なもの(分解しにくいもの)

- ・柑橘類の皮
- ・生の野菜くず（トウモロコシの芯と皮、玉ねぎの皮、枝豆のさや等）
- ・たまごの殻、魚の骨

×ほとんど分解できないもの、いれてはいけないもの

- ・動物の骨、貝殻、カニの殻
- ・腐敗した生ごみ
- ・大きな種（アボカドの種、桃の種、梅干しの種等）
- ・薬品やたばこの吸い殻、剪定枝、ビニールなどの食べ物ではないもの

利用方法

①生ごみを容器等にためる

生ごみは3、4日ため置きしてから埋めるのが基本です。各家庭の生ごみの排出状況にあわせて日数を変えても良いでしょう。

※生ごみの水分を切る必要はありません。

②穴を掘り、生ごみを入れる

20cm程度掘ります。浅いと、生ごみの臭いが発生し、虫が寄ってくる原因となります。



③生ごみと土をよく混ぜる

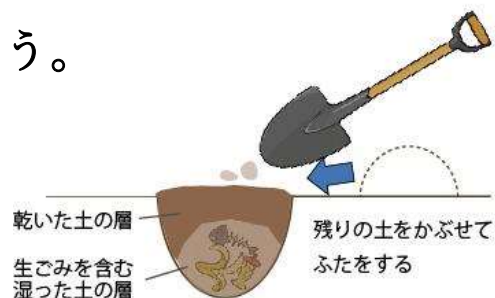
土と触れ合うことで生ごみの分解が進みます。
水や廃食用油等を足してどろどろの状態に
土と見分けがつかなくなるまでよく混ぜましょう。
大きいものは、スコップで碎きましょう。



④乾いた土をかぶせる

表面に生ごみが出ないように注意しましょう。

また、表面の土が乾いていることで、臭いを防止し
虫の発生を防ぎます。



⑤埋める場所を変えてそれを繰り返す

埋め穴は4カ所が標準的です。3、4日に1回埋めると、約2週間で一巡します。1kg程度の生ごみなら、一巡後にはほとんど消滅しています。

*季節や生ごみの種類、量によっては、
消滅していない場合があります。



ワンポイントアドバイス

①生ごみが土中で塊にならないように碎きましょう！

時々、スコップでザクザクと刺すように土に空気を入れ、土がふかふかの状態を維持すると分解が早まります。埋めるたびに、前回埋めた場所、前々回埋めた場所をほぐしてあげると良いでしょう。

②液状の廃食用油やドレッシングの残りなどとも入れましょう！

バクテリアのえさになり、働きを活発にさせ分解を早めます。

③分解されない場合は以下の方法を試してみましょう！

- ・長めにためて一次発酵させる。(米ぬか等を混ぜると、発酵を促進します。)
- ・細かく刻む ・レンジで加熱する ・ゆでる
- ・分解の遅いものは燃えるごみとして出す

Q & A

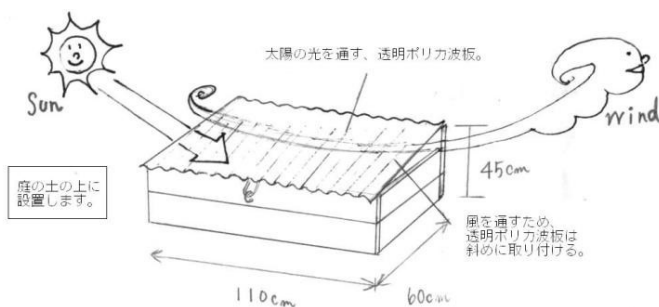
Q1. どうしてこんな形なの？

A. この形は、太陽の光と新鮮な空気を取り込むためです。これによって好気性発酵が促進され、虫や臭いの発生抑制にもつながります。

Q2. 堆肥が出来るの？

A. 生ごみを分解した土は堆肥として利用することが出来ます。

ただし、生ごみは水と二酸化炭素と土の養分に分解されるので、土の量は増えません。この場合は、新たに土を補給する必要があります。



Q3. 生ごみの水分は切る必要がないの？

A. 水を切る必要はありません。ある程度の水分があったほうが発酵が促進されます。生ごみを埋める際には、生ごみと土がドロドロになり手で握って固まる程度にしましょう。